

- 田村学様（文部科学省初等中等教育局主任視学官）による「深い学び」についての特別寄稿を掲載
- 県中教研 創設60周年 記念研究大会の報告
- 教科・領域の指定研究による「深い学びにいたる授業」の提案を紹介

新潟県中学校教育研究会 指定研究の授業情報誌

第9号

2024年(令和6年) 10月

Class

深い学びにいたる授業

～「深い学びの技法」を基に、生徒が自身のよさや可能性を伸ばしていく学びを通して～

生徒のよさや可能性を引き出す「深い学びの技法」

今年度、県中教研では、田中博之様（早稲田大学教職大学院）が提唱されている「深い学びの技法」を基に、自身のよさや可能性を伸ばし、主体的に課題解決に取り組むことを目指します。生徒それぞれのよさや可能性に応じて、「深い学びの技法」を活用し、生徒が学びを深めていくことは、「個別最適な学び・協働的な学びの深い学び」を促す重要なポイントです。私たちが教師も「深い学びの技法」を基に授業を構想し、実践し、振り返り、ファシリテーションしながら、「深い学び合い」を目指します。

教師が深い学びの生徒の姿を設定し、研究推進委員同志で研究に取り組む

「深い学びの技法」を基に、教師が「深い学び合い」のサイクル

各教科・領域で「深い学びの技法」を構想し、お互いに授業実践を共有し、研究発表します。研究会の授業協議会で得た実践を各校で実践することで、会員が共に学び合う「深い学び合い」のサイクルが活性化します。

教師の「深い学び合い」には、ファシリテーション（話し合いを促進する技法）が有効で、積極的に取り上げてきた下記の方法が有効に活用されています。

設定

目指す生徒の姿の設定

目指す授業の構想

教師の主体的な学び合い

思考

生徒の主体的な課題

解決

研究推進委員同志による実践

表現

研究会での成果発表

評価

研究成果の共有

「深い学びの技法」を定着させるためのポイントとは？

① 単元・題材で3～4程度を選び、組み合わせて、手立てとして活用しましょう。

② 生徒の実態に応じて、生徒のよさや可能性を引き出すような技法になるように、教科・領域に応じてアレンジしてみてください。

③ 生徒たちが実際に学び方を通して、教科・領域の学習を深く学び、主体的に課題解決に取り組むようになります。深い学びの質的な向上を期待できます。

深い学びの20の技法

設定

① 学んだ知識を活用して課題や目標を設定する

② 知識やデータに基づいて仮説の設定や検証をする

③ 視点・観点・論点を設定して思考や表現をする

④ R-PDCAサイクルを設定して活動や作品を改善する

思考

⑤ 資料やデータに基づいて観察したり検証したりする

表現

⑥ 理由

⑦ 学習モデルを

⑧ 自分の言葉で学んだ内容を説明し、説明する

⑨ 体系的な知識や知識を整理する

評価

⑩ 複数の資料や資料から批判的に検討する

⑪ 身につけた知識やスキルをメタ認知成長につなげる

⑫ 学習成果の振り返りや自己の関わりを振り返る

⑬ 学んだことを生かして、次の新しい課題を作る

「深い学びの技法」を基に、教師が「深い学び合い」のサイクル

「深い学びの技法」を基に、教師が「深い学び合い」のサイクル

① 協議に応じて、個別のフレームを設定し、参加者の関わりを共有し、問題を共有して、問題解決の改善方法を共有して、Try（改善方法や）

② それぞれのフレームごとに、参加者の関わりを共有し、考えを深めます。

③ 本誌の提案を拡大して、授業で活用し、改善を繰り返して、実践に活かすための準備を整え、実践に取り組む

「深い学びの技法」を定着させるためのポイントとは？

① 単元・題材で3～4程度を選び、組み合わせて、手立てとして活用しましょう。

② 生徒の実態に応じて、生徒のよさや可能性を引き出すような技法になるように、教科・領域に応じてアレンジしてみてください。

③ 生徒たちが実際に学び方を通して、教科・領域の学習を深く学び、主体的に課題解決に取り組むようになります。深い学びの質的な向上を期待できます。

深い学びの20の技法

設定

① 学んだ知識を活用して課題や目標を設定する

② 知識やデータに基づいて仮説の設定や検証をする

③ 視点・観点・論点を設定して思考や表現をする

④ R-PDCAサイクルを設定して活動や作品を改善する

思考

⑤ 資料やデータに基づいて観察したり検証したりする

表現

⑥ 理由

⑦ 学習モデルを

⑧ 自分の言葉で学んだ内容を説明し、説明する

⑨ 体系的な知識や知識を整理する

評価

⑩ 複数の資料や資料から批判的に検討する

⑪ 身につけた知識やスキルをメタ認知成長につなげる

⑫ 学習成果の振り返りや自己の関わりを振り返る

⑬ 学んだことを生かして、次の新しい課題を作る

「深い学びの技法」を基に、教師が「深い学び合い」のサイクル

「深い学びの技法」を基に、教師が「深い学び合い」のサイクル

① 協議に応じて、個別のフレームを設定し、参加者の関わりを共有し、問題を共有して、問題解決の改善方法を共有して、Try（改善方法や）

② それぞれのフレームごとに、参加者の関わりを共有し、考えを深めます。

③ 本誌の提案を拡大して、授業で活用し、改善を繰り返して、実践に活かすための準備を整え、実践に取り組む

「深い学びの技法」を定着させるためのポイントとは？

① 単元・題材で3～4程度を選び、組み合わせて、手立てとして活用しましょう。

② 生徒の実態に応じて、生徒のよさや可能性を引き出すような技法になるように、教科・領域に応じてアレンジしてみてください。

③ 生徒たちが実際に学び方を通して、教科・領域の学習を深く学び、主体的に課題解決に取り組むようになります。深い学びの質的な向上を期待できます。

深い学びの20の技法

設定

① 学んだ知識を活用して課題や目標を設定する

② 知識やデータに基づいて仮説の設定や検証をする

③ 視点・観点・論点を設定して思考や表現をする

④ R-PDCAサイクルを設定して活動や作品を改善する

思考

⑤ 資料やデータに基づいて観察したり検証したりする

表現

⑥ 理由

⑦ 学習モデルを

⑧ 自分の言葉で学んだ内容を説明し、説明する

⑨ 体系的な知識や知識を整理する

評価

⑩ 複数の資料や資料から批判的に検討する

⑪ 身につけた知識やスキルをメタ認知成長につなげる

⑫ 学習成果の振り返りや自己の関わりを振り返る

⑬ 学んだことを生かして、次の新しい課題を作る

「深い学びの技法」を基に、教師が「深い学び合い」のサイクル

「深い学びの技法」を基に、教師が「深い学び合い」のサイクル

① 協議に応じて、個別のフレームを設定し、参加者の関わりを共有し、問題を共有して、問題解決の改善方法を共有して、Try（改善方法や）

② それぞれのフレームごとに、参加者の関わりを共有し、考えを深めます。

③ 本誌の提案を拡大して、授業で活用し、改善を繰り返して、実践に活かすための準備を整え、実践に取り組む

「深い学びの技法」を定着させるためのポイントとは？

① 単元・題材で3～4程度を選び、組み合わせて、手立てとして活用しましょう。

② 生徒の実態に応じて、生徒のよさや可能性を引き出すような技法になるように、教科・領域に応じてアレンジしてみてください。

③ 生徒たちが実際に学び方を通して、教科・領域の学習を深く学び、主体的に課題解決に取り組むようになります。深い学びの質的な向上を期待できます。

深い学びの20の技法

設定

① 学んだ知識を活用して課題や目標を設定する

② 知識やデータに基づいて仮説の設定や検証をする

③ 視点・観点・論点を設定して思考や表現をする

④ R-PDCAサイクルを設定して活動や作品を改善する

思考

⑤ 資料やデータに基づいて観察したり検証したりする

表現

⑥ 理由

⑦ 学習モデルを

⑧ 自分の言葉で学んだ内容を説明し、説明する

⑨ 体系的な知識や知識を整理する

評価

⑩ 複数の資料や資料から批判的に検討する

⑪ 身につけた知識やスキルをメタ認知成長につなげる

⑫ 学習成果の振り返りや自己の関わりを振り返る

⑬ 学んだことを生かして、次の新しい課題を作る

「深い学びの技法」を基に、教師が「深い学び合い」のサイクル

「深い学びの技法」を基に、教師が「深い学び合い」のサイクル

① 協議に応じて、個別のフレームを設定し、参加者の関わりを共有し、問題を共有して、問題解決の改善方法を共有して、Try（改善方法や）

② それぞれのフレームごとに、参加者の関わりを共有し、考えを深めます。

③ 本誌の提案を拡大して、授業で活用し、改善を繰り返して、実践に活かすための準備を整え、実践に取り組む